



みずのとうじょう そりん
天明癸卯帖 二*松井素輪俳諧日記

天明3年(1783)4月1日～9月14日

見開き原寸：縦18.0cm×横19.5cm

前橋本町の本陣の主人で、俳人として知られた松井素輪は、多くの俳諧日記を残しました。その中には、浅間焼けの被害絵図を描いたものがあります。浅間山中腹から土石雪崩が鎌原村を覆って吾妻川に流れ込み、泥流となって流域を襲い、利根川へ合流していく様子が描かれています。「吾妻之人二聞テ印ス」と、この絵図が聞き書きで描かれたものであることが分かります。当時の上州の知識人が直面した大災害に強い衝撃を受け、その様子を克明に描き出そうとした様子が伝わってきます。

松井家旧蔵文書 P01013 No.805